

TTC 提案山行実施記録表 2012年10月30日 報告者: 坂本 達治 (1/2)

山行名	稲子湯～しらびそ小屋・中山峠(2416m)・ニュー(2352m)周遊 [長野県]						
実施日	2012年10月27日[土]～10月28日[日] 1泊2日 公共交通機関利用						
天候/参加人員	天候: 実行欄記載 レベル: ★★ 参加者: 申込7名/実施6名 (男3名/女3名)						
パーティスタッフ	CL/:、SL/写真:、会計/計画:、救護: <span style="float:right">スタッフ名削除</span>						
参加メンバ	氏名削除						
費用	[交通費] 一人当たり: <b>19,680円</b> 本厚木～小海 往路: @8,780(乗車券 3,500*2+特急券 1,780(往路のみ)) 小海駅～稲子湯バス代@800*2、しらびそ小屋宿泊代@8,500(個室料金@500含む)、 稲子湯入浴@600 通信費@200						
歩行/行動時間	10/27[土]: 稲子湯～しらびそ小屋			10/28[日]: しらびそ小屋～ニュー～稲子湯			
	歩行時間	休憩時間	行動時間	歩行時間	休憩時間	行動時間	
	ガイドブック	2:40		6:35			
	計画	2:40	0:40	3:20	7:10	0:40	7:50
	実行	1:47	0:48	2:35	5:06	1:02	6:08

実行コースタイム記録

<b>10/27(土)</b>	あずさ3号	小海線	バス	1:47
本厚木+++町田+++八王子+++小淵沢++++小海++++稲子湯……昼食……小休止……しらびそ小屋(泊)				
6:53	7:08-7:20	7:45-8:01	9:36-9:57	11:05-11:10
			11:45-12:00	12:25-58
				(15')
				14:35着
<b>10/28(日)</b>				
		1:15	0:15	0:53
				0:39
起床==朝食==しらびそ小屋……小休止……中山峠……ニュー分岐……小休止……ニュー……				
4:30	5:00	6:15 発	(15')	7:45
				8:00
				(15')
				9:08-25
			2:04	バス 小海線 ビューやまなし
…白樺尾根・シャクナゲ尾根分岐……小休止……稲子湯++++小海++++小淵沢++++八王子++++町田++++本厚木				
10:04			(15')	12:23-14:05 14:35-14:47 15:56-16:16 18:15-18:19 18:44-18:52 19:16

コースの概要、特記事項、反省事項等

晩秋のカラマツの紅葉と青ゴケの対比を楽しむと共に、山行名に山小屋名が入っていることから分かるように、ランプと薪ストーブの小屋に泊まりたいとの思いが込められた山行を UK さんが計画され、ST が急遽、雇われリーダーの任を受けることになった。年間計画では11月10日[土]～11日[日]で予定されていたが、紅葉の見どころからすると遅すぎるとの判断で、日程を2週間前手繰って、実施の運びとなった。

**10月27日[土]** 天候:曇り 計画通りに本厚木を出発しJR町田駅で全員が合流。公共交通機関を利用したのんびりとした旅も悪くない。全て順調に推移して、小海線での1時間強のローカル線の車窓から見える田園風景は、ひと駅ごとに紅葉の色づきと広がりが増していき、車内のあちこちから歓声が上がる。これからの山行気分を大いに盛り上げてくれる歓迎である。稲子湯で準備を全て整えて時間を確認すると、計画書通りのジャスト12:00。しばらく歩くとみどり池まで2.6kmの表示があり、みどり池のすぐ前がしらびそ小屋であることから、どんなにゆっくり歩いても山小屋まで2時間弱で到着できそうである。紅葉と艶やかな青ゴケの森林をゆ～っくり堪能して歩くことにした。今回、写真担当をお願いした IT さんは、被写体には全くこと欠かない環境下で、旺盛なサービス精神を発揮して、多くの写真を撮ってくれており、出来上がりがとても楽しみである。

しらびそ小屋には予定より45分早く到着。さすがに薪ストーブの小屋である、この冬を乗り切るための薪を切り出すためのボランティアの方々(10名位はいたであろうか?)がせっせと働いており、薪を山のように積み上げていた。おもてなしのお茶と小屋創立50周年記念の日本手ぬぐいを頂き、気持ちの良い対応にこころ温まる思いであった。本日は約30名のツアー客で一杯との事前情報により、個室を確保しておいたのでこちらも問題ない。早速、くるま座になると、各自で持ち寄ったワイン、梅酒、日本酒と併せて、おつまみや手づくりのお惣菜がどっさり出てきて、夕食の時間までの2時間が大宴会となる。小屋で販売していたにごり酒も見過ごす訳にはいかない。話術巧みな ET さんの話に引き込まれながら大いに盛り上がっていると、ツアー客が到着してきた。クラブツーリズムの一行で、比較的初心者を集めた若い女性たちばかり26名の団体であり、中高年の客は含まれていない。「一緒に入りませんか?」と声を掛けたりしていたが、既に出来上がっているオジサン、オバサンを遠巻きに冷やかに見つめているだけであった。

夕食は薪ストーブで暖かく、ほのかなランプがともる食堂でゆったりとした時間を過ごす。ツアーの若い女性たちと夕食で一緒になると、伊勢原や綾瀬出身の方もおられたようで、意気投合して TTC のホームページを紹介し

て勧誘に努めるシッカリ者もいた。これが新規メンバーの確保につながる可能性もなくはない… (2/2)

という気もしたが、酔っぱらって大いに盛り上がっていた中高年の醜態がマイナスに作用するのではないかとやや心配になる。十分に滲み渡ったアルコールがストーブで暖められて身体中を巡ったためであろうか、CLは20時半の消灯のために部屋に戻るよう促されるまでの間の記憶がほぼ完全に飛んでしまった(スミマセン)。

**10月28日[日]** 天候:雨のち雪(みぞれ)のち曇り 4時半に目を覚ますと、外は既に小雨模様である。5時からの朝食の最後にドリップコーヒーのサービスがあり、この一杯が目シャキッと覚ましてくれるし、ほっかりとした気分にしてくれた。しらびそ小屋は継ぎ足し継ぎ足しで造られた決して近代的な山小屋ではないが、薪割りのボランティアに支えられているように、手づくり感があり、そこで働く方々の温かいところが伝わってくる素敵な小屋で、計画者のUKさんも「ここに来て良かった!」としみじみと言っていた。

6時過ぎにツアーの一行が出掛けて行ったあとにゆっくり体操を済ませて、山小屋にお礼の挨拶をしてから出発した。前日のお酒がまだ残っていたことと、十分に目覚めていない身体をほぐすためにも、かなりゆっくり歩いたが、それでもしばらくするとツアー団体に追いついてしまった。中山峠を経由してニューまでは同じコースを辿るとのことなので、同行できるとの期待(?)もあったが、早々に追い抜き、以降、お目にかかることはなかった。

中山峠までは、最初はほぼフラットであるが、徐々に斜度がきつくなってきて、最後はかなりの急坂である。このところ TTC 主催山行への参加率が高く、メキメキと力をつけてきている TS さんも、この程度の坂はものともせず難なく登ってくる。この頃になると朝から降り続いていた小雨がみぞれとなり、峠に近づく頃には雪に変わっていた。我々は東側から峠に向かって登って行ったが、峠の向こう側にはかなり強い北西の風が吹いており、樹々がザー、ザーとざわめいて、冬の到来はそんなに遠くはないと予感させる。峠に出ると、黒百合ヒュッテに立寄る計画をキャンセルしてそのままニューに向かう。尾根道の一部は雪景色で、昨日の紅葉との対比でより綺麗に感じ、早速、写真をパチリ。ニューまでの尾根道は進行方向の右側(南側)が切り立っていて、何箇所かに下界を展望できる場所があった。展望の先には紅葉の山々が広がっており、目を大いに楽しませてくれる。ニューはゴロゴロした岩が積み上がってひととき高い所にピークがあり、その先はスパッと数百メートル切り落ちていて、360度のパノラマビューが堪能できる所である。この頃になると朝から続いていた雨や雪がスッカリ上がって十分に展望がきく。身が軽いことで定評のある HM さんはピョンピョンと岩を飛び回って楽しんでいる。軽快な動きを見ていると、全く危ない感じがしないから不思議だ。他の者は程度の差こそあれ、それぞれに高所に対する恐怖感があり、岩にへばりついて南側の下界を見下ろすと、一面カラマツの紅葉で黄色一色に染まっている。北側に目をやると、2010年9月に訪れた麦草峠～白駒池が深い森の中にポツカリと浮かんで見える。

ニューを発つと後はひたすら下りで、暖かい温泉が待つ“稲子湯”を楽しみに歩くのみと思いきや、ここからの下りが今回の山行のハイライトと言っても過言ではないと思われた。山小屋のおかみさんが「深い緑の森を楽しんで下さい」と仰られていたが、特にこの辺りの鬱蒼としている森のことではないかと思われる。雨で十分に潤ったコケが青々と艶やかに光っている。このような森の中を誰と出会うこともなく歩いていると、不思議の国を彷徨っているような気分させられた(と言っても不思議の国に行ったことはありませんが…)。また、今回の山歩きでは場所によって大きく3種類の紅葉を楽しむことができたような気がする。1つは、眼前に広がる山々が遠大に紅葉に染まっている風景。2つ目は、その森の中を歩いて、内側から油絵のように映し出される紅葉のシルエット。3つ目は、スッカリ落ちてしまったが依然として色づいている落ち葉が一面に敷き詰められ、そのフカフカの落ち葉の絨毯を踏みしめて歩く心地よさ。決して“湯った～り山行”として計画されたものではないと思うが、心が和むゆったりとした時間を過ごすことができた2日間だったと思う。

稲子湯は昔ながらの温泉宿で、温泉は炭酸泉とのこと。風呂場に混々と冷たい水が湧き出ており、コップが置いてあったので試しに飲んでみると、炭酸で口の中が刺激を受けて違和感があるのと、独特の味がして決して美味しい水ではなかった(これに甘味を加えてもサイダーには到底なり得ない)。

予定より早く下山できたことから、予約していたタクシーをキャンセルして公共のバスを利用し小海駅まで戻り、更に、小淵沢駅からの電車も特別快速(特急料金不要)に都合よく乗り合すことができたので、約2,000円/人のコストダウンが実現できた。八王子、町田を順調に経由して本厚木に19:20頃に無事帰着した。

このところチョット短歌に触れる機会があり、今回の山行でパッと思い浮かんだ歌を2首紹介して、本山行の計画者および参加の皆さまに感謝の意を表し、実施報告を終えることにする。

紅葉に染まりし野山にそよぎ吹く 風もほのかに赤いろ黄いろ

秋の夜にランプの宿でほろ酔いで 語り尽くせぬ山への思い

— 以上 —